

【目 的】本論は女子大生が夫の両親との同居と自分の両親との同居を想定した場合に希望する二世帯住居での生活形式と同一機能の空間数に関する調査結果の比較を報告する。

【方 法】本論は女子大生（2年生：2グループで合計 101名）に前記の2通りの場合について各々1グループのアンケート調査の調査結果を比較して共通点と相違点を導く。

【結 果】夫の両親との同居を想定したグループは二世帯住居に住みたくない者が最も多く、自分の両親との同居を想定したグループはどちらでもよいと考える者が多い。両グループとも合同型団欒でも独立型団欒でもよいと考える者が最も多い。両グループとも居間を2つ設置したい者が大部分である。両グループとも合同型食生活でも独立型食生活でもよいと考えている者が最も多い。夫の両親との同居を想定したグループ（48名）は自分の両親との同居を想定したグループ（53名）より食堂を2つ設置したい者の比率が高い。自分の両親との同居を想定したグループ（48名）の合同型食生活希望者の大部分の者は食堂を2室設置したいと考えている。両グループとも居間を2室設置したい者の大部分の者は食堂も2室設置したいと考えている。夫の両親との同居を想定したグループ（48名）の居間を1室設置したい者の約半数の者は食堂は2室設置したいと考えているので合同型団欒を営みながらも独立型食生活を営みたいと考えている。両グループとも台所を2室設置したい者の人数が1室設置したい者の人数より多い。夫の両親との同居を想定したグループ（48名）は自分の両親との同居を想定したグループ（53名）よりも台所を1室設置したい者の比率は低い。台所を2室設置したい者の比率は高い。